

2011年9月6日

< 報道関係各位 >

ビジネスソフトウェア アライアンス(BSA)

BSA メンバー企業 3 社が関東所在のコンピュータソフト企画制作会社と 世界最高額の約 4 億 4 千万円で和解 ～ BSA への通報を端緒とする和解としても過去最高額 ～

安全で信頼できるデジタル社会の実現を推進するビジネスソフトウェア アライアンス(本部: 米国ワシントン DC、会長兼 CEO: ロバート・ハリマン、以下 BSA) は、BSA メンバー企業であるアドビシステムズ インコーポレーテッド(以下アドビ)、オートデスクインク(以下オートデスク)およびマイクロソフト コーポレーション(以下マイクロソフト)の 3 社は本日、関東所在のコンピュータソフト企画制作会社(以下 A 社)によるビジネスソフトウェアの著作権侵害に関し、総額 4 億 3,774 万 1,088 円で和解が成立したと発表しました。本件は、BSA へ寄せられた情報提供を端緒とする事案の和解総額として、世界最高額となるものです。

本件に関する情報提供は、BSA が組織内違法コピーの問題解決のために設置している情報提供窓口への通報が端緒となり発覚したものです。A 社の著作権侵害発覚後、BSA メンバー企業の依頼により行われた A 社の社内調査の過程において、アドビが著作権を所有する製品「Adobe® Photoshop®」等、オートデスクの「Autodesk® MAYA®」等およびマイクロソフトの「Microsoft Office®」等の違法コピーが、合計約 1,300 本発見されました。A 社による著作権侵害の解決に向け、権利者であるアドビ、オートデスクおよびマイクロソフトの代理人が、A 社の代理人との間で協議を重ねていました。

組織内違法コピーに関する「情報提供窓口」: <http://www.bsa.or.jp/enforcement/provide.html>

BSA 会長兼 CEO のロバート・ハリマンは、「本件は、BSA メンバー企業へのビジネスソフトウェアの著作権侵害事案で、過去最高額の和解となりました。違法コピー率が 20%と世界で最低水準である日本においても、まだ組織内違法コピーは後を絶たないのが現状です。BSA では、各国の BSA 事務局と連携して、これまで以上にソフトウェアの不正利用防止に向けた啓発活動を展開していきます」と述べています。

BSA 日本担当事務局長の松尾早苗は、「昨年に引き続き、BSA ホットラインへの情報提供を端緒とする世界最高額の和解が日本で成立しました。コンプライアンスマインドが浸透しつつあり、知的財産保護に関する意識も高まっている日本国内において、依然としてこれほど大型の組織内違法コピーが行われていたことは大変遺憾です。今回のような大型の組織内違法コピーの発覚により、企業や組織において、ソフトウェアの違法コピーを放置することが経営上の大きなリスクとなるという認識が、より一層広まることを期待します」と述べています。

ビジネスソフトウェアの不正利用によるソフトウェアメーカーへの経済的損失は多大であり、ソフトウェア産業の成長を鈍化させる要因となっています。強いては、新製品開発をも妨げるだけでなく、国内さらには世界経済全体の成長にも悪影響を及ぼします。BSA では、権利保護支援のために「違法告発.com (www.145982.com)」および「情報提供窓口(電話、Web フォーム、E メール)」を開設し、日々不正利用防止のために尽力しています。また、不正利用の予防・防止のために必要不可欠なソフトウェア資産管理(SAM)の普及啓発活動を目的として、企業向けに「C-SAM ポータル (www.bsa.or.jp/csamportal)」、自治体向けに「P-SAM ポータル

(www.bsa.or.jp/psamporta)といったコンテンツを用意し、引き続き正規ユーザーの保護ならびに違法コピーの利用を強いられている方々の環境改善を支援してまいります。

以上

組織内違法コピーについて

企業や学校、病院など複数のコンピュータでソフトウェアを使う組織内における違法コピーが「組織内違法コピー」であり、現在日本でもっとも多く見られる違法コピー形態でもあります。例えば、1台のコンピュータでのみ使用することが許諾されたソフトウェアのパッケージを入手して複数のコンピュータにインストールするような場合がこれに該当します。

「違法告発.com」について

「違法告発.com」(www.145982.com)^{イホウコクハツ}は、組織内違法コピーの実態と情報提供の安全性等を広く訴求することを目的としたマイクロサイトです。過去の通報案件をヒントに組織内違法コピーの手口を読み切り漫画で紹介する「違法コピーのある風景」、BSA 日本担当顧問が、情報提供の安全性やポイントについて解説する「BSA への情報提供が安心な 4 つの理由」、違法コピーの通報者へのアンケートをもとに、通報から違法コピー状態の改善までの体験談をまとめた「私が決断した理由」の 3 つのコンテンツで構成されています。

■BSA について

ビジネス ソフトウェア アライアンス (BSA) は、ソフトウェア市場の成長とイノベーションのための環境整備を目的に、世界 80 ヶ国で活動している世界最大のソフトウェア業界団体です。今日、ソフトウェアは、世界中の国の経済および社会的発展を推進する上で必要不可欠であり、各国政府およびパートナー企業は、ソフトウェアに関する重要な政策・法的問題について BSA の専門的な意見に関心を寄せています。BSA メンバー企業は、地域経済、より良い雇用の創出、さらに世界中の人々の生産性向上、つながり、安全に役立つ次世代型ソリューション実現に向け、毎年数十億ドルの投資を行っています。BSA のメンバーには、アドビシステムズ、アジレント・テクノロジー、アンシス、アップル、Aquafold、ARM、Arphic Technology、オートデスク、ベントレー・システムズ、CNC/Mastercam、コーレル、Dassault Systèmes SolidWorks Corporation、メンター・グラフィックス、マイクロソフト、Minitab、NedGraphics、オルボテック、Parametric Technology Corporation、Progress、Quest Software、ロゼッタストーン、シーメンス、サイベース、シマンテック、テクラおよび The MathWorks が加盟し、活動を行っています。詳しくは、BSA 日本ウェブサイト www.bsa.or.jp または、BSA 米国本部ウェブサイト www.bsa.org/usa (英語) をご覧ください。

【媒体掲載時の読者の方のお問い合わせ先】

BSA: <http://www.bsa.or.jp>

違法告発.com: <http://145982.com>

【この件に関する報道関係者からのお問い合わせ先】

BSA 日本 PR 事務局 (MSL JAPAN 内) 担当: 山田、西田

Tel: 03-5759-5871、Email: bsa.jp@msljapan.com